

それにしても
呆れたお方や!
—フィリフィリとバーバーはゆく
美和 茂 Miwa Shigeru

青山ライフ出版

目次

メデイア	6
プロローグ	15
ネパールへ	21
夢の形成	27
ムスタン王国	35
苦闘14時間15分	57

あとがき	128
インタビュー	124
友情	117
サクセス	103

それにしても呆れたお方や！

ーフィリリフィリりとバーバーはゆく

メディア

「コロナ、コロナ」と、めったに架かってこない電話が鳴り、受話器を取ると、読売新聞大阪本社社会部記者西村泰輔氏からで、取材の申しこみであった。

今年5月に成功した自身のヒマラヤ登山など、仰々しく他人に知らす必要もないので友人の数人に報告しただけにしていた。ところがNAからリークされたようで、知られた以上は秘匿する必要もなく、なにかの役に立つのであるならばと、取材に応じることにした。

取材は後日8月14日の夕刻自宅で行われた。

以下新聞の記事より

2001年8月16日(木) 地域ニュース P/20

68才初の本格的登山 6160メートルクリアー

神々しさに涙 「さらに高い山を狙う」

阿倍野区王子町 美和 茂さんが、68才になって初めて挑戦した登山で、今年5月、ネパール・ヒマラヤ山脈の「アイランド・ピーク」(6160m)の登頂に成功した。

トレッキングが趣味で、ヒマラヤ歩きもしてきたが、本格的な登山経験はなかった。

60才代で6000m級に登る「エイジクライム」を達成して、自然に溶け込む感覚が忘れられないという美和さんは、さらに高い山を目指し、新たな挑戦に思いをはせている。

トレッキングを始めたのは7年前、「山道を5・6時間歩く体力があれば、世界最高峰を一望できる」と知人に誘われ、ヒマラヤのトレッキングコースで、富士山とほぼ同じ高さの山を歩くを歩き、魅せられた。以来高分子化学の研究者として仕事をしながら、山歩きを続けてきた。「一度でもいいからトレッキングではなく、山に登りたい」。そう思うようになったのは今年の2月。自分で70才と設定した「山に行く限界」まで残り2年を切ってからだ。ヒマラヤに9回出かけたとはいえ、整備されたルート。

本格的な登山用具を使ったことも、訓練を受けたこともない。

自信と言えば「5000m以上のところを4回行って一度も高山病にかかったことがない」という高さの適応力だけ。大学時代山岳部で、冬山経験のある知人には「やめた方がいい」と反対されたが、思いは断ち切れなかった。比較的容易に入山許可証が取れるアイランド・ピー

クに目標を定めた。

5月1日ふもとの町を出発し、4日ベースキャンプ（5380^{ft}）に着いた。その先は本格的な装備が必要な万年雪のアイスバーンが続く。傾斜は最大60度。

この日夕刻10分だけ、同行のガイドにザイルやピッケルを使って登る方法を教えてもらい、午後8時、眠りについた。自分の体調をベストにすることだけを考えて。

5日午前2時15分。

山岳ガイドら2人とともに登山を開始した。ヘッドランプの明かりを頼りに、経験したこともない急な斜面を少しずつ登る。最大難所の氷壁では、何度か足を滑らした。命綱一本だけの宙つり状態にもなった。だが慌てず、身体を傾斜に近づけ、ピッケルを打ち込むことを心がけた。カメのようなスピードでじりじり高度を稼いだ。頂上まであとわずかに迫って急に体が動かなくなった。

ピッケルを突き立てられないほど疲労はピークに達していた。

最後はガイドに体を引き上げられ終に登りきった。

午前11時30分。スタートから9時間15分たっていた。

雄大な自然に溶け込んだようにぼう然となった。ガイドの姿が目映った瞬間、涙があふれた「ありがとうございます」と何度も繰り返して、ようやく実感がこみあげてきたという。

「人生最後の挑戦のつもりで臨んだが、このまま死んでもいいと思うほど純粹に、美しく、神々しかった。体力の続く限り、さらに高い山を目指したい」と。美和さんは話している。

この記事が掲載された8月16日の3日ほど後、MBSラジオから電話があり、番組担当の井口ダイレクターが、

「担当する番組の、中村鋭一氏とゲスト対談に出て欲しい。中高年に生甲斐を与える意味で、貴重な経験であると思う。ぜひ協力願いたい」という。マスメディアに全く興味はないが、既に新聞に掲載された以上は同じことであり、少しでも役立つということであれば、そのことを拒否する理由もない。そこで、

「趣旨はよく解りました。このような些細なことでも、番組や世の中に役立つならば、出来ることはいたします」と返事をする。

「ありがとうございます。放送日程のこともありますので、後日追ってご連絡いたします」ということになった。

後日FAXで調整しながら詳細が決まった。

放送日…2001年9月15日(土曜日)

番組は「鋭ちゃんのアサイチラジオ」6:00～8:00

対談は 7:15～7:45 以下放送内容を記載する。

中村鋭一(元衆議院・参議院・朝日新聞記者) 土屋多恵子アナ。

N#中村鋭一 A#土屋アナウンサー S#茂

A「本日のゲストは、68才で生まれて初めてヒマラヤ登山に成功された、美和 茂さんです」

S「今日は、初めまして」

N「今日は好くお越しくございました。よろしく」

S「こちらこそよろしくお願ひします」

N「大阪のどちらですか」

S「はい、阿倍野です」

N「それではあんたと一緒や」とアナウンサーに。

A「そうですか、それじゃご一緒のところですね」

N「ところで、なんでヒマラヤなんかへ登りはったんですか」